

コロナ感染症から子どもと教育を守ろう！NEWS(7)

新型コロナ感染症に関する通知などの情報や、府高教のとりくみ、現場の声をお伝えします

＼コロナ対策も！真の無償化も！少人数学級も！／

今こそ教育予算増額へ！「えがお署名」を広げよう！ みんなで声をあげれば、要求は前進します！

2021年度の文科省「概算要求」に向けて、私たちの願いを政府予算に反映させるため、**教育予算増額を求める「えがお署名」**のとりくみをすすめています。

感染拡大防止には、今こそ予算と人員が必要

感染拡大防止のための衛生用品の確保、「3密」を防ぐための少人数授業、養護教員の加配など人員増が必要です。臨時休業中の「分散登校」でも明らかになったように、人も物も絶対的に足りていないのが現状です。**今後、中長期的にコロナ感染予防と教育活動を両立させていく中では、今こそ予算の措置が必要**です。

教職員数減少に歯止めを

2020年度は、全国で教職員定数が2199人減※でした。少子化であるのなら、逆にそれをチャンスととらえて、**教職員数を今より減らさず、道理のない学校統廃合を中止すれば、少人数学級は実現**していきます。

※加配等 1726人、少子化等による自然減 3925人の差し引き

少しずつ前進してきた少人数学級

1959年50人学級、1964年45人学級、1980年40人学級 2011年小学1年生の35人学級(翌年2年生まで拡大)と、段階的に少人数学級が前進してきました。この背景には、国民や教職員組合の運動が貢献したことは確かです。

現在、県や市によっては独自加配で少人数学級を実現しています。大教組調べでは、大阪府では13以上の市町村が独自に小中学校教員を加配し、国基準より低い学級人数を実現しています。

少人数学級含め、教育予算の増額の世論は高まっています。

今こそ職場で地域で「えがお」署名を広げていきましょう。



4/30 職場に送付しています

VOICE オンライン授業…各校の実情に応じた学びの提供が必要

府からの要請をうけ、各校オンライン授業への対応をしていらっしゃるのかと思います。場当たりに始められたオンライン授業のなかで、様々な問題に直面されているのではないのでしょうか？

本校でも、在宅勤務が可能になったにもかかわらず、オンライン授業の撮影や管理のために出勤せざるを得ない現状があります。他校や他教員と比較されて突きつけられる生徒や保護者からの要望に応えるため勤務時間を超過して働く教員もいますし、技術的な



差が授業の評価に影響しないかと不安を述べる教員もいます。教員の姿が映っている動画を加工し、SNSにアップする生徒がいるなど、教員の肖像権が侵害される事案も発生しています。

生徒の学びのため柔軟な対応が求められていますが、制度や環境が整わないなかで、パフォーマンス的に強要されるオンライン授業には疑問を呈さざるを得ません。教員が生徒や保護者のニーズに真摯に答えるためにも、各校の実情に応じた学びの提供が必要であると感じます。

(市内支部Hさん)



新型コロナ対策について
ご意見をお寄せください
osfuko@yahoo.co.jp



新採加入が
相次いでいます！